

加 佐

学校教育目標

『 仲間とともに 夢と希望をはぐくみ 学びあい 認めあい 鍛えあう生徒の育成 』

学校だより 2月号
平成30年2月1日
舞鶴市立加佐中学校



TEL 83-0004 FAX 83-3201

E-mail kasa-jhs@kyoto-be.ne.jp

交互に協力できることの素晴らしさ！



京都大学霊長類研究所でチンパンジーの親子に実験をしました。この親子

は、共にモニターに無作為に散りばめ表示された1～9までの数字を小さい方から順に選んでタッチすることを既に習得しています。そこで、親子がモニターの前に並んで座り、その間に相手の動きが分かるように透明の障壁を置きます。自分の前のモニターにはタッチできても障壁が邪魔をして相手の前のモニターにはタッチできない訳です。例えば親の前には「1・2・4・7」、子の前には「3・5・6・8」を表示します。すると親が、まず「1→2」をタッチするのを待

本校が目指す生徒像

知；真面目に考え判断力のある子
徳；思いやりを持って助け合う子
体；健康でたくましく行動する子

って子が「3」をタッチします。それを観て親が「4」をタッチし、続いて子が「5→6」をタッチ・・・と最後の「8」までタッチできました。つまり親子で連続的に協力して互いに役割を交代しながら課題（小さい数字から順にタッチ）を解決したのです。これは、他のチンパンジーの親子でも確認されました。動物は、生きるために互いに情報のやり取りをし、その中で課題に対して役割交代をしながら協働しなければなりません。人の世界では、互いに協力して役割交代をするのは日常茶飯事です。進化の過程において他の動物には、この当たり前のことが、中々高度なことみたいです。確かに、人の世も互いに間を取りつつ待ちながら協力するのが難しく、争い事は絶え間ないですが・・・最後に実験の中で、子は母の様子をよく観て真似をする場面が顕著にみられ、社会性を身に付ける「母から子」への学習体系が観られたそうです。やはり、親がしっかりしないと駄目みたいです。



根と葉は互いに自分の役目を果たして良い関係

大寒を過ぎ、やはり雪が積もりました。雪かきや車の運転が無ければ、野山

の雪化粧も自然の美の一つです。その景色の中、雪の重さに耐えながらも倒れない木は、すごいです。この時ばかりは、地中に隠れ見えない“根”の頑張りに思いがいきます。また“根”は、水分等を吸収する重要なはたらきもするので、普段は目立たない縁の下の力持ち的な捉え方をされます。この時期、広葉樹の“葉”は落ちていて、はたらきも無いのですが「新緑・紅葉」と季節の節目では、スポットライトが当たります。何かしら“根”より“葉”の方に人の視線は、向いているように思います。しかし“根”も“葉”もそんなことは、互いに全く思っていないでしょう。“根”は「葉が光合成で栄養分を作ってくれるから、それをもらって自分は成長できるので、ありがとう！」“葉”は「根が木を支え水を送ってくれるから自分は光合成ができるので、ありがとう！」と互いに思い合っているだけでしょ。



校長 山口 茂
教職員一同